

# 令和5年度普及活動アルバム

## 上伊那農業農村支援センター

上伊那地域は、春先の低温・凍霜害により、りんご、なし等の果樹を中心に大きな被害を受けた一方で、梅雨明け後は、猛暑が連日続き、品質・収量確保に苦労した年となりました

このような中、当支援センターの重点活動では、「水田農業経営体の複合化、新品種・新品目導入による活性化」として、麦類や大豆の安定生産、品質向上に向けた支援や、高収益が期待できるアスパラガスの単収向上やゴマの生産振興、サツマイモ栽培技術の確立等に関係機関と連携して普及活動を行ってまいりました。

一般活動では、新規就農実践塾等による若手農業者への就農支援、環境にやさしい農業の技術指導やスマート農業の普及などを目指した活動を行いました。

普及活動へのご理解とご協力に感謝し、活動成果の一部をご紹介します。



【5月】

### 水田農業経営体の複合化

駒ヶ根市や宮田村では地産二条大麦「小春二条」を使った地ビール、ウイスキー醸造が行われており、年々栽培面積が増えています。

「小春二条」の生産安定に向けた、生産者、関係団体との収穫前検討会を開催し、作柄状況や収穫時期等の検討、栽培上の課題等を共有し、次年度の栽培に向けた課題等の共有を図りました。



【5月～10月】

### サツマイモ栽培技術の確立と収益力の向上

飯島町はサツマイモを転作田での高収益作物として推進しています。

町内に、新たな干し芋加工グループが組織されたことから、加工に適した大きさのイモ(400g～500g)の生産に向け、株間や栽培期間の違いによる影響等を調査し、加工グループと共有を図りました。



【5月～通年】

### 新規就農実践塾の開催

新規就農者向けに「新規就農実践塾」を開設し、農業に関する基礎知識・技術の習得を図っています。

5年度は、基礎、りんご専門、野菜専門の3コースを設けました。各コースに8名～16名が参加し、座学のほか、先輩生産者のほ場視察や実技研修等による技術習得のほか講座を通じた仲間づくりに繋がっています。



【6月】

### 担い手育成・確保の取組

農業経営者協会上伊那支部主催の「担い手育成懇談会」の活動を支援しました。

上伊那農業高校や信州大学、JA上伊那等から関係者33名が出席し、各組織の担い手育成の取組みをはじめ、多くの農業研修生を受け入れている上伊那支部の会員の取組みを共有し、担い手の育成・確保の重要性への認識を更に深めることができました。



【8月～通年】

### 地域計画の策定支援

農業経営基盤強化促進法の一部改正に伴い、市町村は、地域の協議により将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」を策定することになりました。

市町村の取組を支援するため、市町村ごとに支援チームを組織し、集落等への説明会や話し合いに参加するなど、地域計画の策定にむけた活動を行っています。



**【1月】**

### **青年農業者発表会「アグリフォーラム」の開催**

青年農業者等の個々の農業経営の課題解決を進め、自立した農業経営の確立に向けた取組みを進めています。

その一環として、青年農業者による一年の課題解決に向けたプロジェクトの取組成果や意見発表の場として「アグリフォーラム」を開催しました。



**【3月】**

### **剪定枝の炭化による炭素貯留の取組支援**

地球温暖化対策に向け、県は「ゼロカーボン戦略」の取組を進めています。農業分野では、果樹の剪定作業で出る剪定枝を炭化し土壌に還元する炭素貯留を推奨していることから、果樹農家、JA等関係機関を参集した炭化実演会を開催し、炭素貯留の理解の促進を図りました。



**【通年】**

### **スマート農業推進体制の確立**

急速に開発が進むスマート農業技術の普及に向けて、リモコン式の除草機や草刈り機、ドローンによる病害虫防除等の実演会を開催しました。また、関係機関との連携による推進体制を確立するため「スマート農業シンポジウム」の開催のほか、新たに「スマート農業導入推進上伊那地域連絡会議」を設置しました。